

新まちづくり計画（H16～18）事業総括調書

施策体系コード	3-2-1		事業名	札幌・環境力・UP事業
担当	環境局環境事業部計画課 村崎、山田 211-2912			
全体計画（当初）				
事業内容	世界に誇れる環境の街さっぽろの実現に向けて二酸化炭素排出量10%削減など市民・企業・活動団体等の主体的な環境保全行動の喚起、促進、持続を図りつつ、全市的な運動への進展につながる戦略を検討するとともに、取組を継続的に展開し、札幌・環境力（札幌の環境の力 自然のもつ力・負荷を受け入れ再生・自浄する力・環境容量、市民の力 環境を守り、よりよくなっていきたいと考え、行動する市民の力）の増進を図る。		＜年度別の事業内容＞	
			平成16～18年度ソフト事業の実施 平成16年度 行動喚起訴求アイテム（スローガン等）作成・配布 平成17年度 前年度の成果の検証及び改善、運動展開に向けたキャンペーン等の実施 平成18年度 前年度の成果の検証及び改善、運動展開のためのイベントの実施	
等事業内容（量・場所・規模）	平成16年度事業内容（決算）		平成17年度事業内容（決算）	
	市民・企業・活動団体等の環境保全行動の喚起・促進・持続のため、大学生を中心とする市民参加型プロジェクトを設置し、スローガンを検討・作成し公表した。決定スローガン「守るものが、ある。」 また、取材による新聞記事への掲載（2回）をはじめ北海道新聞に記事広告を掲載し、決定スローガン、プロジェクトメンバーや検討経過などを公表した（2005年3月31日）。2,468千円		1. 前年度に作成したスローガンのロゴタイプを作成。 2. 大学生によるプロジェクトチームとの協働により、「DESIGN FUROSHIKI EXHIBITION（デザインふるしき展）」を開催した。4,673千円。	
事業内容（量・場所・規模）	平成18年度事業内容（決算）		評価（成果）	
	3年計画の最終年度として、これまでの成果を踏まえて、イベント・キャンペーンを開催した。 1. 前年度実施した「DESIGN FUROSHIKI EXHIBITION（デザインふるしき展）」での成果物である受賞作品のふるしきの展示希望が相次ぎ「環境広場さっぽろ2006」等市内・市外の数多くのイベントでの展示を行った。合計で約3万5千人もの来場者があり、好評であった。 2. 学生によるプロジェクトチーム及び出版社との協働により、フリーペーパー「PILOT」に本事業の特集記事の掲載及びふるしきの挟み込みを行った。また、ふるしきのプレゼントや衣料品店等との協働によるふるしき持参キャンペーンを行うことで、ふるしきを通して環境に関するコミュニケーションを図った。 3. ミュンヘンクリスマス市において「エコバッグ&ふるしきデー」を設定し、エコバッグの配布及びふるしき包みワークショップを開催した。当日エコバッグの配布には配布時間前から行列ができるほど大盛況と成り、イベントを通して市民の環境への関心を高めることができた。 4,484千円		「17年度」 「DESIGN FUROSHIKI EXHIBITION（デザインふるしき展）」の開催にあたり、若者向けフリーペーパーなどの協力を得ながらふるしきのデザイン及びアイデアを募集したところ、日本各地より377点の応募があった。また、優秀作品等の展示会を環境省や風呂敷メーカーの協力によりJR札幌駅で開催し、推定20,000人の来場者と、テレビ4社、新聞社4社の取材を受けるなどふるしきを通じて若者を中心とする市民の環境意識や行動の喚起に向けた効果的な事業展開が図られた。 「18年度」 本事業の記事を掲載したフリーペーパーが市内2万部配布され（道内は3万部）、ふるしきのプレゼントには119名の応募があった。また、クリスマス市でのふるしき包み方講座には58名の申込があった。 さらに、本事業に対し、市の広報番組での特集やテレビ・ラジオ・新聞等及び他市町村から多数の問い合わせがあった。ふるしきという媒体を用いて、環境への意識が低いと考えられる若者と、環境に関するコミュニケーションを行う上で有効な事業であった。	
課題				
平成17年度 全市的な運動展開のため、市民、企業、活動団体、マスコミ等の多くの参加・協力が必要となる。 平成18年度 本事業に対して、市民やマスコミから予想以上の関心を集めることが出来た。この関心を環境意識の定着へとつなげることが重要である。				
19年度以降の方向性・事業の予定				
市民・企業・活動団体等の主体的な環境保全行動の喚起・促進・持続を目的として、大学生を中心とした市民参加型プロジェクトとの協働による「ふるしき」のデザインコンテストなどを展開し市民の関心を集めてきた。 市民・企業等を対象とした普及啓発事業の重要性は今後ますます高まるため、今後も環境局全体として取り組んでいく必要がある。札幌市における環境力をUPするため、今までの取り組みを一歩進めて、これら普及啓発事業によって喚起された環境意識を持続させ、適切にフォローアップしていくための方策を検討していきたい。				

